

小学校

平成 9 年 度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

平成9年度

教育研究員（生活）名簿

地区名		学校名			氏名					
墨 大 世 杉 豊 荒 板 練 足 武 府 町 国 東 稲	田	田	錦	糸	小	望	月	慶	子	
		田	馬	込	三	大	塚	康	子	
	北	谷	桜	町	小	◎	宮	眞	由美	
		並	萩	窪	小	○	若	林	文	恵子
	北	島	目	白	小	奥	山	弘	子	
		豊	豊	川	小	鬼	澤	君	江	
	荒	川	第	三	峡	田	越	原	昌	子
		橋	中	根	橋	小	三	宅	裕	美
	練	馬	北	町	西	小	野	村	佳	男
		立	鹿	浜	小	○	湯	原	眞	由美
	武	蔵	関	前	南	小	萩	野	幹	夫
		日	日	新	小	有	水	幹	洋	一
	府	中	町	田	第	一	田	中	清	子
		立	国	立	第	二	渡	部	直	美
東	大	第	長	一	小	樋	口	正	治	
		城	長	峰	小	成	井	大	祐	

◎ 世話人 ○副世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課 指導主事 伊 東 富士雄

目 次

I 研究主題について	2
「生活科で育つ力とそれをはぐくむ学習活動の探究」	
研究主題設定の理由	2
II 研究の構想	4
III 研究の方法	5
IV 研究の内容	
研究内容の全体図	6
1. 生活科で育つ力	7
2. 育つ力をはぐくむ学習活動	10
3. 意識調査結果と考察	12
4. 育つ力が見える活動計画	13
5. 育つ力の見取り	14
V 実践事例	
1. 「実践する力・表現する力・かかわろうとする態度」が育つ学習活動	16
第1学年「しごとだいさくせん」	
2. 「実践する力・かかわろうとする態度」が育つ学習活動	20
第2学年「おもちゃを作ってあそぼう」	
VI 研究の成果と今後の課題	24

〈 概 要 〉

生活科で育つ力を分析・整理し、7つの力として仮定した。力ごとに具体的な児童の姿を想定し、それを児童の育つ力を見取る視点とした。さらに、育つ力をはぐくむ学習活動を考え、その活動において、育つ力が見える活動計画の表記方法を工夫し、作成した。また、育つ力を見取る方法にも工夫を図った。

これらのことをもとに、授業実践を通して、育つ力とそれをはぐくむ学習活動を検証した。その結果、児童の育つ力を共通の視点でとらえることができ、育つ力をはぐくむ学習活動が展開できるようになった。

I 研究主題について

平成9年度 小学校教育研究員共通研究主題

児童一人一人のよさや可能性を生かし、生きる力をはぐくむ指導の工夫

1. 共通研究主題のとらえ方

(1) 「生きる力」は「自立への基礎となる力」として

第15期中央教育審議会第一次答申では、「生きる力」として、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力と、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性と、たくましく生きるための健康や体力をあげている。私たちはこの「生きる力」を生活科の教科目標が目指す「自立への基礎となる力」としてとらえた。そして、その力の主なものとして、「人・自然・社会と共に生きる力」「個性を発揮しながら自分らしく生きる力」の2点を考えた。

その理由は、自ら育つ可能性に満ちた1・2年生の子どもたちが、自然や社会とかがわり、自己を発揮できる仲間のもとで、自分の思いや願いをかなえていくことが、大切である。

また、このことは、いろいろな事物・現象への気付きを深めることにつながり、さらに、自分の可能性を信じ、自信をもって、自分らしく生きる力を身に付けることにもつながると考えたからである。

(2) 「児童一人一人のよさや可能性を生かす」は「一人一人の育つ力を大切にする」として

児童は本来有能であり、自らの力を発揮し、よりよく生きたいと願っててるという児童観にたつ。そして、どんな力が育っているのかをていねいにみていくことが、児童一人一人をより深く理解し、よさや可能性を生かすことにつながると考える。

(3) 「生きる力をはぐくむ指導の工夫」は「生活科の学習活動の探究」として

子どもは自分の願いをかなえたいと思ったときは、苦手なことに挑戦したり、周りに働きかけたりしながら、生き生きと活動し、思わぬ力を発揮したりする。そして、願いをかなえたときの喜びは大きく、飛躍的な成長をとげることもしょくない。子どもたちが意欲的に取り組めるような学習活動そのものを探究することが生きる力をはぐくむ指導につながると考える。

生活部会研究主題

生活科で育つ力とそれをはぐくむ学習活動の探究



2. 研究主題設定の理由

(1) 生活科の学習活動に対する疑問や問題から

今年度は、全都道府県に生活科の研究推進校が指定され研究を始めてから10年目、すべての学校で生活科の授業が完全実施されるようになったから6年目に当たる。生活科の学習活動は定着してきており、子どもたちも楽しく毎日の学習を進めている。しかし、日々授業実践している私たちの耳には少なからず、生活科の学習活動に対しての疑問点や問題点が聞こえてくる。それには次のようなものがある。

① 学校独自の活動計画が形骸化している

地域や学校の実態に応じた活動計画で授業を行うといわれている。しかし、職員の異動や1・2年の担任の変更で、教科書通りの活動になったり、うわべだけまねた活動計画により活動が展開され、実際にはその学校独自の計画が形骸化されてきているのではないか。

② 育つ力がはっきりしない

この研究を行うに当たって、生活科の授業を経験した児童が、生活科の学習活動やそれを通して身に付けた力をどのようにとらえているのか意識調査を行った。その結果、9割近くの児童が生活科の授業は楽しいと答えている。しかし、楽しいだけでよいのか、生活科でどんな力が育つのかという声も多い。生活科で育つ力を子どもも教師もはっきりととらえきれていないのではないか。また、育つ力を実感できる方法もはっきりしていないのではないか。

③ 学習活動に無理がある

おもちゃ作りをしたり生き物や植物を飼ったり育てたりする活動などでは、幼稚園や1・2年で同じようなことも行われている。前述の意識調査で1割の子どもが生活科の授業が楽しくなかったと答えている。「虫が嫌い」「作業を他の人がほとんどやっていたから」「育てていた花が枯れてしまったから」など、理由は様々である。発達段階や児童の実態に応じた学習活動が行われていないのではないか。

④ 生活科の活動は時間がかかる

生活科の活動は時間がかかるし、準備も大変という声がよく聞かれる。活動が精選されていなかったり、その活動のねらいが不明確であったりしていないか。また、必要以上の準備をしていないか。

(2) 児童の実態から

① 喜びや感動が次への活動意欲を生む

「生き物を飼っていて死んでしまうのは悲しいけど、飼っていて楽しいことのほうが多かったから、今では自分の家でモルモットを飼っている」(5年)「生活科でやったおもちゃが楽しかったから、家で作った。そしたら失敗して、2・3回やり直した」(3年)「けん玉ができるようになった。初めてやったとき、いきなりできた。練習を続けたら連続できたからまたやりたい」(2年)これらは意識調査に寄せられた子どもの声である。他者依存で、自主的、自律的でない傾向にあるといわれる子どもたちも体験活動で得た喜びや感動は深く心に残り、新たな活動意欲を生んでいる。

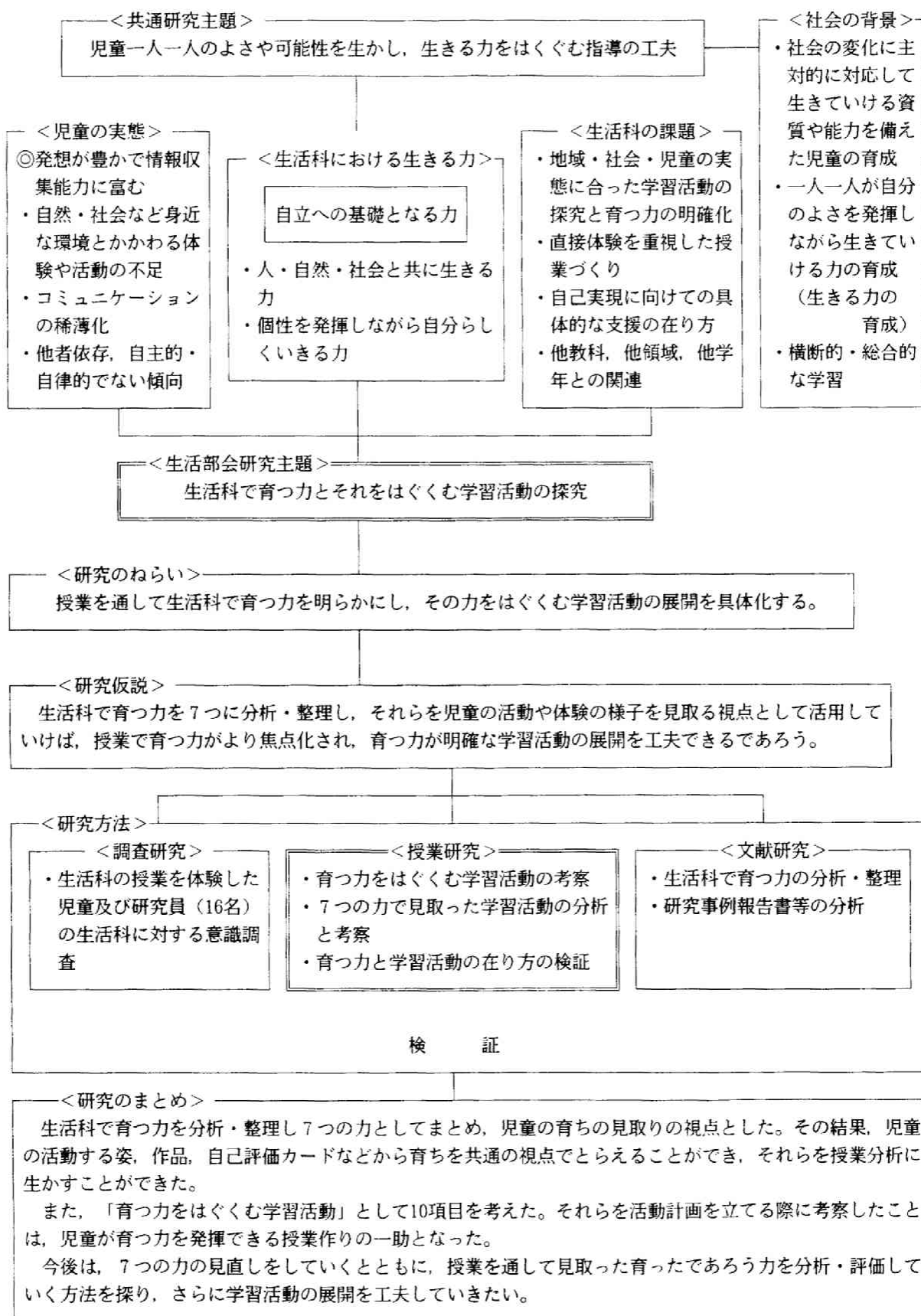
② 体験したことが力として身に付く

「動物はそれまで苦手だったけど、学校で飼い始めてから好きになった」(6年)「植物や生き物を育てたりしたことで、命の尊さが分かった」(5年)「紙すきをやって葉を作ったとき、初めてアイロンをやった。それからアイロンかけができるようになった」(3年)「町探検のとき、ドキドキしてきたけど、だんだんドキドキがなくなった」(2年)このように、体験することで、新たな自分を発見し、力として身に付けている。知識は豊富であるが、自然や社会など身近な環境とかかわる体験が不足しているといわれている子どもたちに豊かな体験を通して、自分自身を見直したり、振り返ったりする機会を大切にしていきたいと考える。

以上のことから本主題を設定した。



II 研究の構想



Ⅲ 研究の方法

1. 生活科の授業を体験した児童の生活科に対する意識調査を行い、育つ力の分析と学習活動の在り方に生かしていく。
2. 生活科で育つ力を分析、整理する。(指導書・先行研究・意識調査などから)
3. 育つ力をはぐくむ学習活動を考える。また、育つ力を見取る方法を工夫する。
4. 授業研究を通して、育つ力と学習活動の在り方を検証する。

調査研究

<目的>

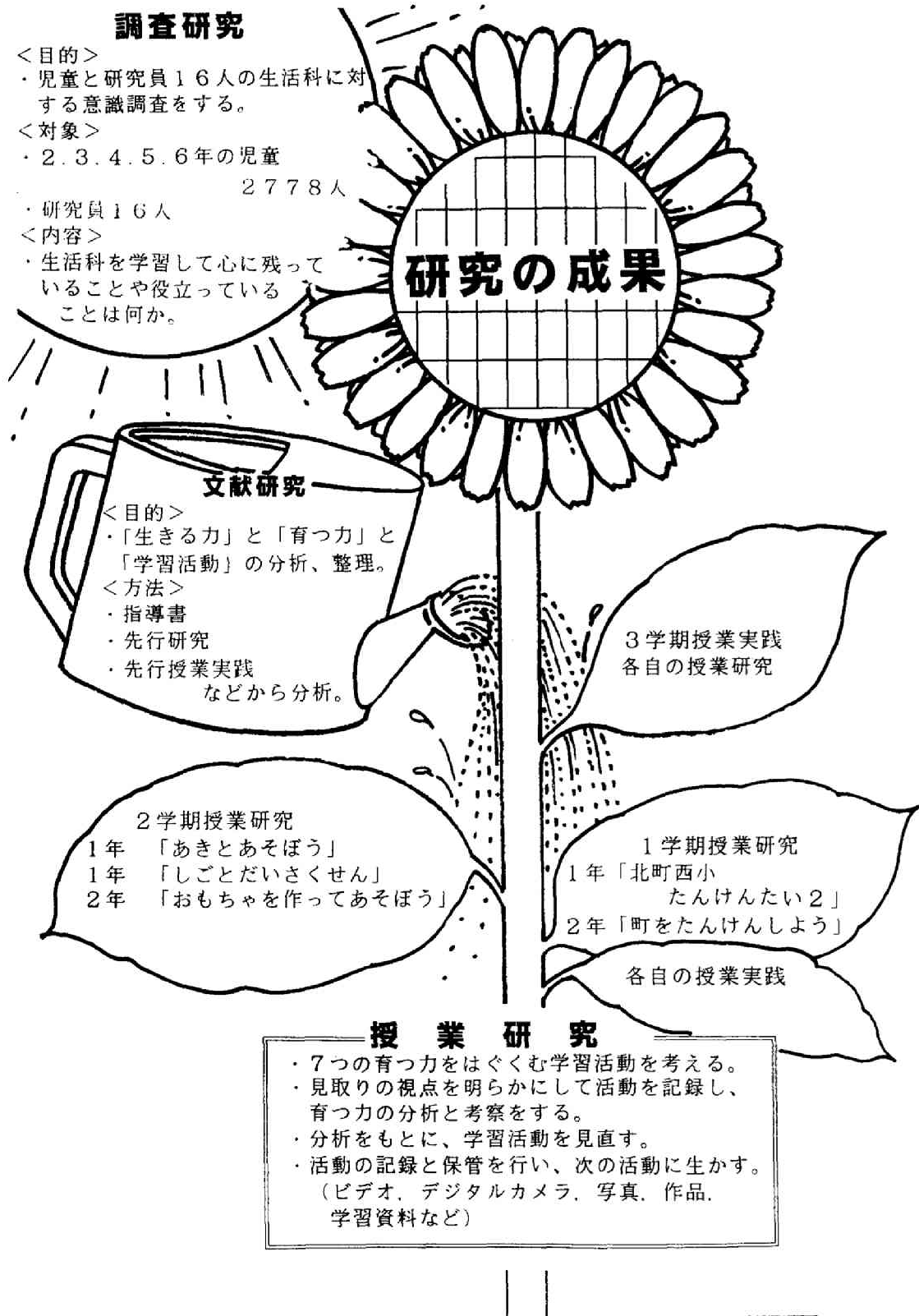
- ・児童と研究員16人の生活科に対する意識調査をする。

<対象>

- ・2.3.4.5.6年の児童
2778人
- ・研究員16人

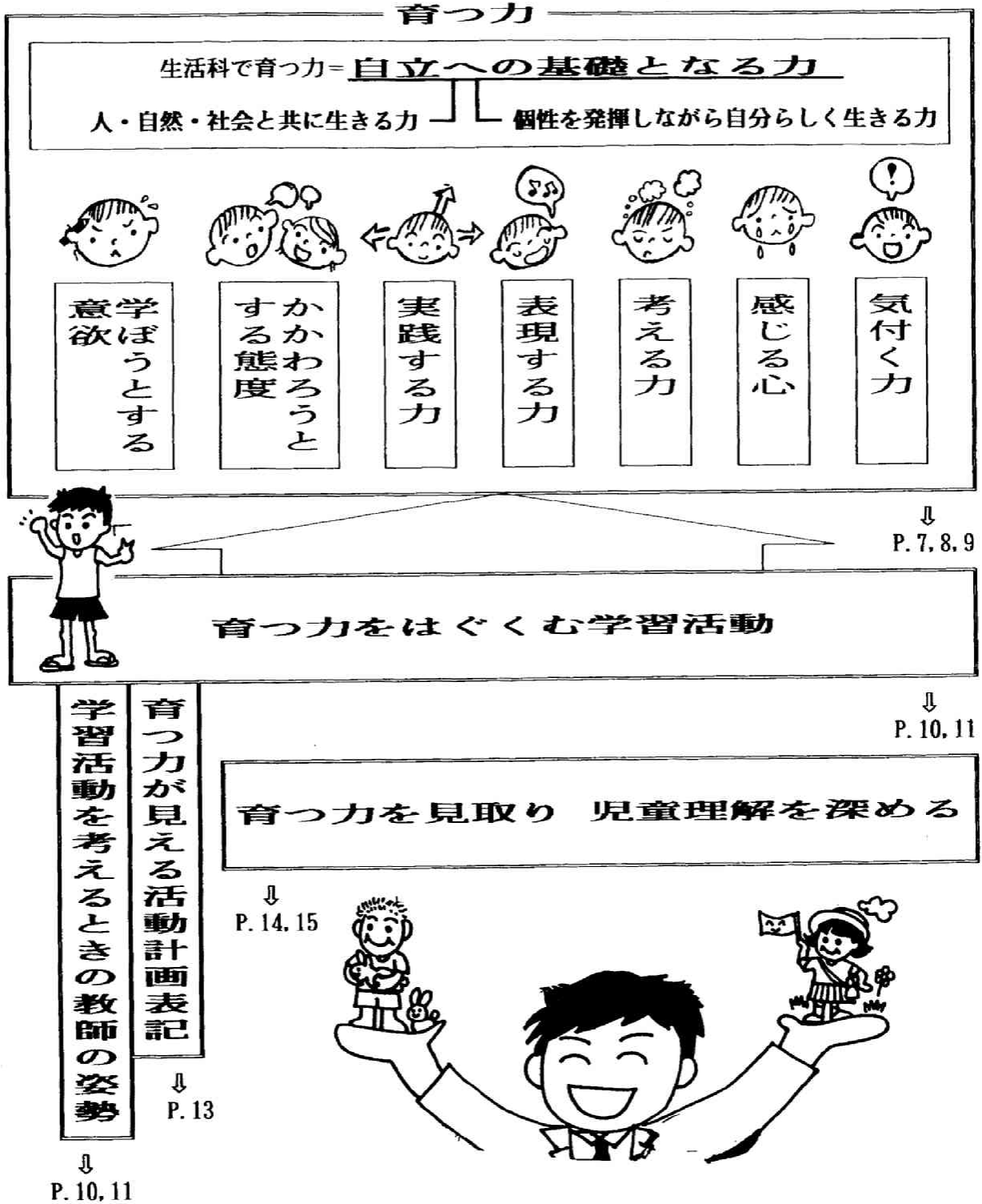
<内容>

- ・生活科を学習して心に残っていることや役立っていることは何か。



IV 研究の内容

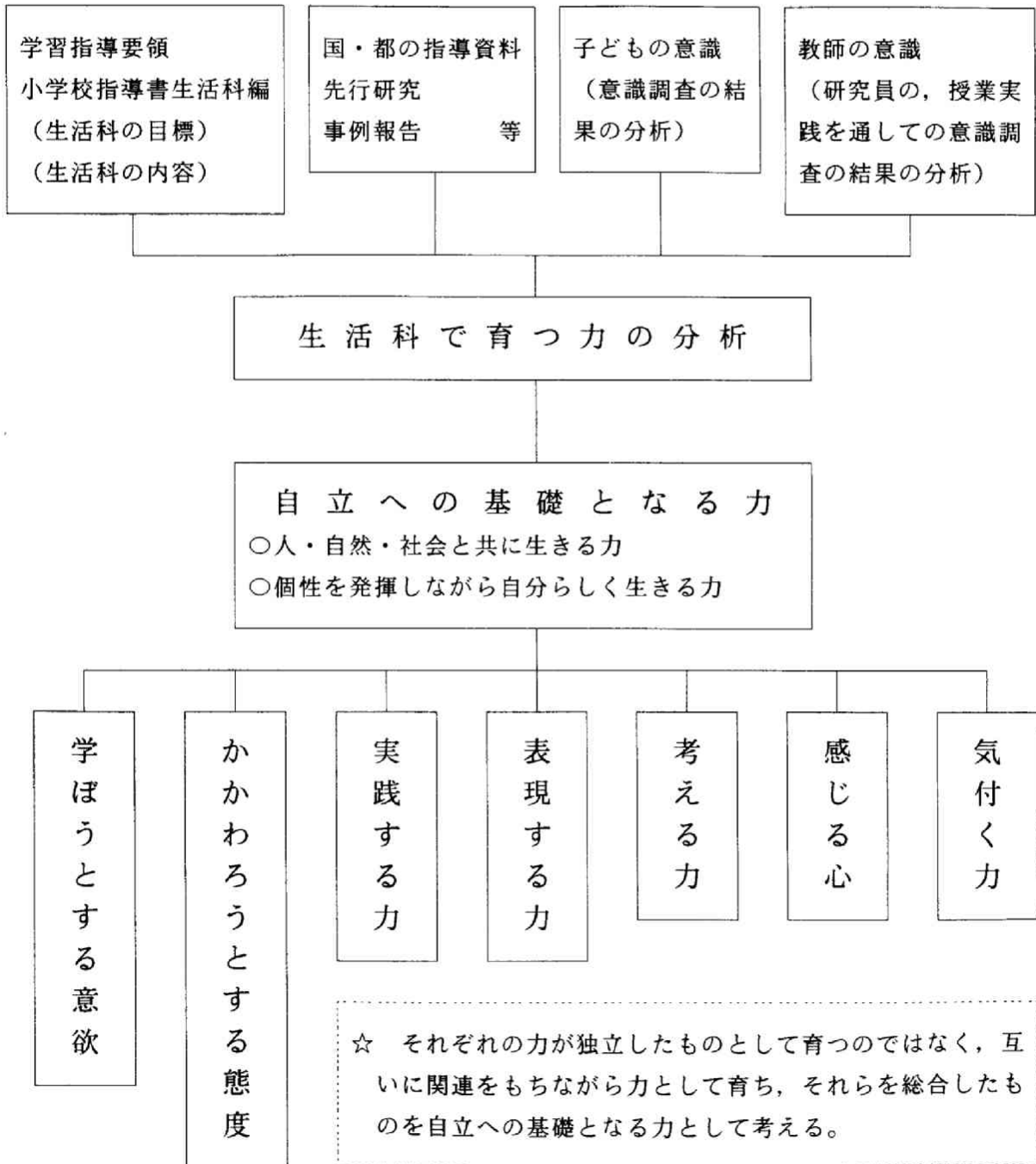
生活科で育つ力仮定し、それをはぐくむ学習活動の展開を具体化することにした。そして、授業実践を行いながら育つ力や学習活動を分析・検証していく。それに並行して、児童に育っている力を見取る方法や育つ力が見える活動計画の表記方法についても明らかにしていきたいと考えた。これらの研究の全体像は以下の通りである。



1. 生活科で育つ力

「生活科でどのような力が育つのかよく分からない」とか、「自立への基礎となる力は具体的にはどういう力なのか」「子どもたちのどういう姿を通して力が付いたと言えるのか」という声が、よく聞かれる。生活科がねらう『自立への基礎』をより具体的にするためには、『生活科で育つ力』を子どもの姿を通して明らかにする必要があると考えた。

そこで、私たちは以下のような資料を基に生活科で育つ自立への基礎となる力を分析し、学習や生活の基礎となる能力や態度として7つの力を仮定した。



7つの力は、以下のような具体的な子どもの姿として表すことができると考えた。そして、これらのものを、生活科で子どもに育つ力を教師が見取るときの視点とした。

生活科で育つ力と子どもの姿

【学ぼうとする意欲】

- ・いつでも、どこでも、何からでも学ぼうとする。
- ・自分の思いや願いを実現しようとする。
- ・今までの自分を振り返り、これからの自分自身をよりよくしようとする。
- ・最後まで粘り強く活動しようとする。
- ・いろいろな事象に興味をもち、知的好奇心を満たそうとする。

学校から持ち帰った朝顔を家でも育てて、毎年種を採り、またまいてふやしています。今年もたくさん咲くといいなあ。



【かかわろうとする態度】

- ・身近な環境とのかかわりを楽しもうとする。
- ・身近な対象に、自分なりの思いや願いを込めてかかわろうとする。
- ・身近な人々に適切な態度でかかわろうとする。
- ・仲間意識や帰属意識をもち、共によりよく生活しようとする。

昔の遊び大会で、昔の遊びを近所のおばあちゃんやお母さんたちに教えてもらったので、できるようになりました。とてもうれしかったです。



【実践する力】

- ・課題に対して積極的に取り組み、解決する。
- ・自分が考えたイメージを確かめるために行動する。
- ・健康や安全に気を付けながら行動する。
- ・公共の施設や交通機関を正しく利用する。
- ・生活上必要な道具を正しく使用する。



遊び道具を自分で作って遊ぶのが楽しい。この前は、竹馬を作って遊んだ。

【表現する力】

- ・自分の思いやアイデアを自分なりの方法で表現する。
- ・自分の気持ちを身体全体で豊かに表現する。
- ・必要なことを、適切な方法で相手に伝える。



みんなの前でも緊張しないで楽しく発表できるようになった。

【考える力】

- ・見通しをもって考え，企画する。
- ・筋道を立てて考え，予測する。
- ・自分で判断し，決定する。
- ・自分たちの生活を工夫したり，楽しくしたりする。
- ・問題が起きた時に，適切な対処の仕方を考える。
- ・試行錯誤しながら，よりよい方法を考える。



いろいろ考えてやっても
玉が浮かばなかったけど，
ストローの先のモールを
うずまきの形にしたらう
まく浮かんだ。

【感じる心】

- ・身近な環境との触れ合いの中で，不思議に感じたり，
驚いたり，楽しんだりする。
- ・諸感覚を駆使して，身体全体で感じる。
- ・自然や生き物に親しみを感じる。
- ・友達とのかかわりの中で，喜びや悲しみを共感する。
- ・人のために役立っていることの喜びを感じる。
- ・自分のめあてを達成した喜びや，最後までやり遂げた喜びを感じる。

うさぎをさわってみたら，
すっごくふわふわ
で気持ちよかった。



【気付く力】

- ・活動を通して，物事の法則や道理に気付く。
- ・身近な環境を観察し，事実を的確に把握する。
- ・季節の変化と生活とのかかわりに気付く。
- ・動植物の成長や変化，変態などに気付く。
- ・自分や友達の成長の様子やよさに気付く。
- ・公共の施設の存在や，その働きに気付く。

生まれてからのことを調べて，
自分のことがよく分かった。た
くさんの人のおかげで自分は成
長できたんだなあと思った。



☆ これらの「生活科で育つ力」は，検証授業を通して見直していく。

☆ 吹き出し内は，意識調査での2～6年生の児童の記述より抜粋。

2. 育つ力をはぐくむ学習活動

生活科の学習活動における疑問点や問題点を受け、児童が生活科の学習をどのようにとらえているか、意識調査を行った。

一方、教師も生活科の授業を行ってきて、どんな面を変わってきたかの研究員の意識調査を実施した。

これらの調査と先行研究や指導書も参考にして「育つ力をはぐくむ学習活動」を考えた。

児童から

児童への意識調査、「生活科の授業は、楽しかったですか？」という質問に、86.8%の児童が「楽しかった」と答えている。これは、生活科が児童の思いや願いを大切にす

る教科であるからと考える。

さらに、その理由として、



などをあげている。これらの意識を見ると、児童は、体験活動を好んでおり、教室だけにとどまらず、自然の中や地域の中でのびのびと学習したいと思っている。また、自分の思いや願いを実現したり、友達と一緒に活動したりすることが楽しいと思っていることが分かる。

しかしながら、まだ、13.2%の児童は、生活科を「楽しかった」と実感できていない。

その理由として、

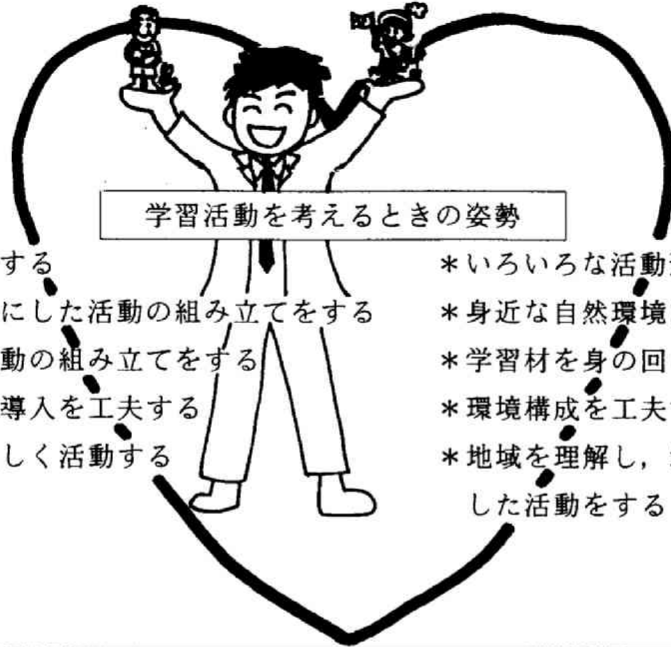


などをあげている。まだまだ児童の思いや願いが大切にされていない場合や学習活動の工夫、一人一人への手立てを十分考えられないこともある。

これらのことから、活動を通して、一人一人にどんな力が育っているかを児童が具体的に自覚できるようにするために、一人一人の実態に応じた教師の支援が大切であると考える。

教師から

意識調査した結果を「学習活動を考えるときの姿勢」として、以下のようにまとめた。



学習活動を考えるときの姿勢

- * 体験活動を重視する
- * 一人一人を大切に活動の組み立てをする
- * 教科を越えた活動の組み立てをする
- * きっかけ作りや導入を工夫する
- * 児童とともに楽しく活動する
- * いろいろな活動形態を工夫する
- * 身近な自然環境に関心をもつ
- * 学習材を身の回りから探す
- * 環境構成を工夫する
- * 地域を理解し、地域の特色を生かした活動をする

育つ力をはぐくむ学習活動

- ☆ 直接体験を重視した活動
- ☆ 場の広がりがある活動
- ☆ どんな小さなことでも自分で選び自分の願いで実行する活動
- ☆ 友達と一緒にする活動
- ☆ いろいろな人とかかわる活動
- ☆ いろいろな子がリーダーになれる活動
- ☆ ワクワクする活動
- ☆ 繰り返しのある活動
- ☆ 一人一人を大切に活動
- ☆ 子どものよさを認める活動

先行研究・指導書から



3. 意識調査の結果と考察

(1) 調査の目的

これまで行われてきた生活科の学習を振り返ると、学習活動を通して「育つ力」が明らかではなかった。そこで、「育つ力」をはぐくむために、どのような学習活動を考えていけばよいのか手がかりを得るために、生活科を経験した児童を対象に「生活科をどのようにとらえているか」意識調査を行った。

(2) 調査の方法

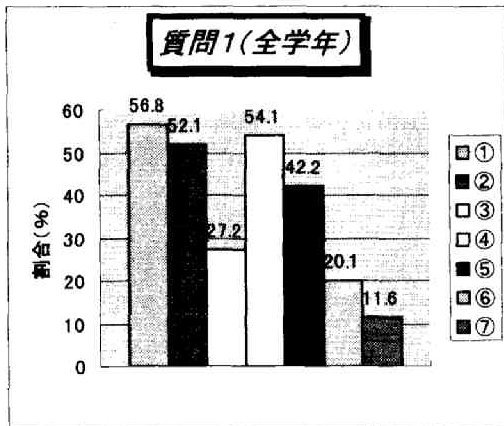
調査対象 都内公立小学校児童（2～6年生） 2,778名

調査方法 生活科の授業に対して、選択肢を選び、それについて記述する。

調査時期 平成9年6月

(3) 調査項目と結果

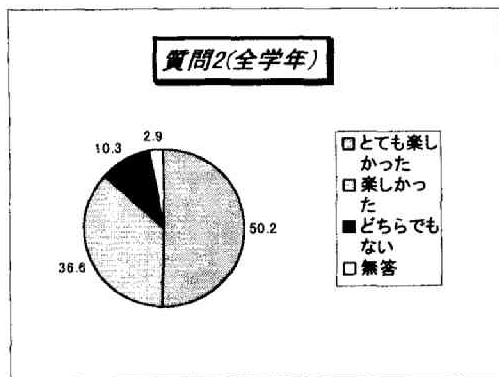
質問1 生活科の授業で心に残っていることがありますか。



調査の結果から、探検活動が一番印象深かったことが分かる。自分で探検する場所やすることを決めたことが楽しかったようである。さらに、探検の道具を自分なりに工夫して作ったこと、友達とかかわりながら活動したことも関係していると思われる。

- ①探検をする ②生き物を飼う ③お祭り
- ④花や実がなるものを育てる
- ⑤遊べるものや道具を作る
- ⑥自分の成長をまとめる ⑦そのほか

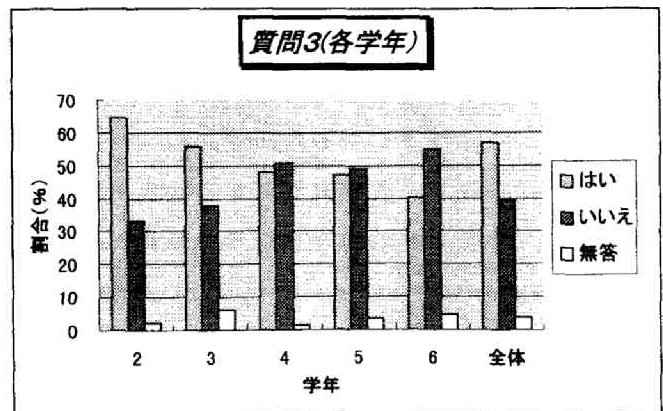
質問2 生活科の授業はたのしかったですか。



この質問には、90%近くの児童が「楽しかった」と答えている。生活科が児童の思いや願いを大切にしている教材であるからであろう。

質問3 生活科の授業でできるようになったこと、好きになったこと、やってよかったと思うこと、もっとやりたいことがありますか。

この質問には全体で40%近くの児童が「いいえ」と答えている。それも高学年になるにつれ、その傾向がみられる。「こまが回せるようになった」という具体的な力だけではなく、自分についての様々な力をしっかり認識できるようにすることが、必要なことが分かる。



4. 育つ力が見える活動計画

生活科で、児童にどんな力が育つかを授業の中で検証していくためには、従来の活動案では育つ力が見えにくい。そのため、育つ力が見える活動案について、児童は本来自分の力で育つという立場で、次のように考えて活動計画を作成し、授業実践を行った。

第 学年『 』が育つ活動計画

↑
 仮定した7つの育つ力の中で、本単元で特に育つと思われる力を書く。

(1) 単元名

児童の立場から見た表現で、既習の漢字のみを使い平仮名で書く。

(2) 育つ児童の姿

従来は、教師の側から「単元のねらい」として書かれていたものを、児童は有能であり自らの力で育つという考えのもとに、教師主体ではなく児童の立場で、単元の中で育つ力を具体的な姿で書く。

(3) 活動計画 (全時間数) 実施月

	児童の活動	育つ力と見取りの視点	支援・他教科との関連
小 単 元 名 が あ れ ば 入 れ る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 主な活動を、児童の言葉で書く。 (時間数) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動を書く。 ・ ・ ・ 	<p>【育つ力】</p> <p>◇見取りの視点を児童の活動に照らし合わせて、具体的に児童の姿がみえるように書く。</p> <p>【育つ力】</p> <p>◆特に育つ力『 』（表題）については、括弧・記号を変える。</p>	<p>○育つ力をはぐくむための支援を、できるだけ具体的に書く。</p> <p>●特に育つ力は、記号を変える。</p> <p>☆他教科との関連があれば、教科・単元名教科書等の出版社を明記する。</p>

— 児童の活動の区切りで、点線を入れる。

(4) 本時の活動

- ①育つ児童の姿 教師側の目標ではなく、1時間の中で見られる児童の姿を予想して書く。
- ②展 開 児童の活動・育つ力と見取りの視点・支援を活動の様子がよくとらえられるように書く。形式は、活動によって工夫する。

5. 育つ力の見取り

私たちは、生活科の学習活動を通して育つ力を7つに仮定し、それぞれの力を発揮する具体的な子どもの姿を想定した。そして、それを視点として育つ力を見取ることにした。

「見取るとは、最後まで見届け、よく見分け、見て共感し、見て理解する、愛情のある見方のことである。見取るとは、聞き取るに通じる、聞き取るとは、①聞いてははっきり理解する、②事情がわかるように聞く、③聞いて良く記憶する（大辞林、三省堂）と示されている」

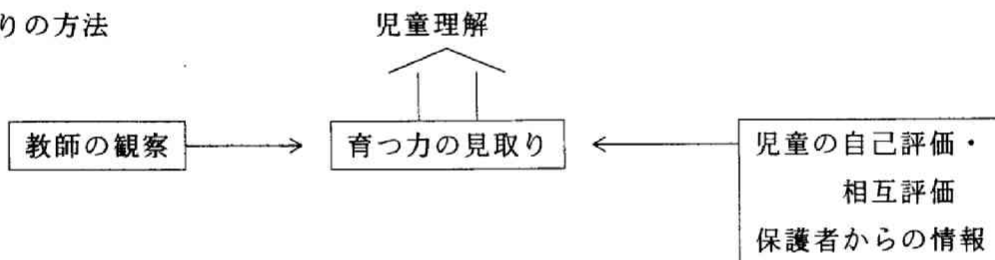
（「生活科学習指導論」 嶋野道弘 平成8年 東洋館出版社）

私たちもこの考え方で、児童の育つ力を見取っていくことにした。

(1) 見取りの順序

- ① 想定した7つの力を発揮する子どもの姿を、单元ごとにより具体的な児童の姿に置き換え、それを見取りの視点として、授業に臨む。
- ② 7つの力別に見取った児童の姿を記録する。
- ③ 記録をもとに、児童に育つ力と学習活動の在り方を分析する。

(2) 見取りの方法



< 教師の観察による見取り >

児童の活動の様子や作品をもとに見取った。

① 個人の『育つ力』の見取り

特定の児童について詳しく見取りたい場合、それぞれの力を発揮している姿をより具体的に想定しておき、記録をとっていった。見取りの視点があらかじめはっきりしていたため、かなり正確に育つ力を見取ることができた。それと同時にどの力を発揮していたかも明らかにすることができた。

観察対象児童 ()

育つ力と見取りの視点	児童の活動の様子	育つ力と見取りの視点	児童の活動の様子
かかわろうとする態度 ◎ ・木の葉や木の葉の製作を楽しく行う ・友達と相談して教え合ったりしながら作る。	・グループのみんなが作ったものを集めている。 ・「のりをかして」と言う友達にやさしく「いいよ」とかしてあげる。 ・「やじろべえの顔を作った方がいい？」と友達の友達にきき、とりの子をとまねる。 ・友達から黙ってマシッパをかりる。 ・けん玉が入らない子に声をかける。	考える力 ・試行錯誤しながら、よい方法を考え作り作る。	・ようにして、とんぼりを回してはからビーズをつける。 ・ビーズが完全につくまで、歯の子でとめておく。 ・机の上でできたとんぼりを置き直す。 ・やじろべえ用にとんぼりとくめぎを選ぶ。 ・竹にささるようにとんぼりに穴をあける。
実践する力 ・グループのイメージに合うように作る。 ・安全に気をつけて道具を使う。	・とんぼりの穴あけ器ときりを並べて、穴をあける。 ・ようにさす。 ・とんぼりのまわりのにりをつけてビーズをかざる。 ・6個目くらいからたんぼんすばやく仕上げられるようになった。 ・やじろべえの顔を作る。目がビーズ、口はマシッパ。 ・やじろべえの目を作る。 ・片付けを避んで、やりにいった。	感じる心 ・秋のたからものが、お店の品物に大変身したことに喜びを感じる。 ・グループの友達とともに作品のできばえを喜び合う。	・先生が「お客さんが喜びようはものが作れたかな？」ときくと、とんぼり3つあずる。 ・友達に「すごい」と言われてうれしそうにほほえむ。
学ぼうとする意欲	・「トントン」最後に最後まで作るうとしている。	気付く力 ◎	・友達がとんぼりを回しているのを見ている。

②クラス全体の『育つ力』の見取り

クラス全員の見取りを記録する場合に下に示すような表を用いた。その活動の中でどんな力が育ったのか、発揮されたかを明らかにすることができた。

(パッチンがえる作り)

児童名	学ぼうとする意欲	実践する力	かかわろうとする態度	表現する力
1	見本を見て、どれかどびそうかある	助言をきいて作り直す	N君に作り方を説明してもらう	ニコニコカード どうすればいいかなとカード
2		工夫やき点を知らず、すぐ進んでいた	横とぼしの競争券にたいてはじかせる競争	ニコニコカード
3	牛乳パックを二本持ってくる	いくつも作っていた	横とぼしを友達に見せていた	
4	見本のかえろを長いととぼして	後片付けをしなかった	友達ととび、競争をしていた ゲームもついていた	友だちのとび教えるよカード
5	かえりを作りたい。紙をわけて帰りたい?	一つ作っていた	友達のとびが面白いを見ていた	ニコニコカード
6	見本のかえろのとびかえりを作りたい	おぼやく、一つ作り終えていた	友だちに自分のかえろを見せていた ゲームもついていた	どうすればいいのかなカード

こうした見取りは、一単位時間だけで完結するのではなく、単元全体あるいは複数単元を通して継続的に積み重ねていくことが大切である。時折振り返ることにより、児童の変容がとらえられ、育つ力が明らかになってくる。

<児童や保護者を介しての見取り>

教師の観察だけでは見取りにくい児童の内面を知る手だてとして有効であると考えた。

①自己評価

ぼくは、はじめは、みちの足がこねえられなかったけど、しらすにあそんだり、ろうじをしたりしてなかなかなりまかせ中がワクワクして、いざさわると気もちがいいです。またあそぼうね。

・育つ力 【感じる心】を見取った例
 ・単元名 「ハムスターとあそぼう」 1年
 ・視点 生き物に親しみを感ずる
 ・ハムスターになかなか触れなかった子が世話をしたり、遊んだりする中で徐々に親しみを感ずった例

②相互評価

TくんやKさんか、ぼくがおそくなると道でまわってくれたり、えきできんぎょの買い方を親見せつに教えてくれたのでうれしかったです。

・育つ力 【気付く力】を見取った例
 ・単元名 「小さな旅をしてみよう」 2年
 ・視点 友達のよさに気付く
 ・乗り物に乗ってグループごとに土手へ行った学習の中で友達のよさに気付いた例

③保護者からの情報

... 今回の校外学習は、ワクワクドキドキ本当に楽しかったようです。すきのおみやげを持って帰り、ひと通り話してくれました。自信もついたので、2日の休みには、父親を案内すると申し、一緒に出かけました。帰ってくると、目を丸くして楽しかった一日のことをいろいろ話してくれました。ありがとうございました。

・育つ力 【実践する力】を見取った例
 ・単元名 「小さな旅をしてみよう」 2年
 ・視点 自分の願いや思いを実践する
 ・学校で乗り物を利用して土手へ行った学習の後、家族を案内すると家庭で実践した例

V 実践事例

第1学年

『実践する力・表現する力・かかわろうとする態度』が育つ学習活動

1. 単元名 「しごと だいたくせん」
2. 育つ児童の姿
 - 自分の毎日の生活を支えてくれる家庭生活の様子に関心をもつ。
 - 家族の一員として、できる仕事を見つけ、進んで仕事に取り組む。
 - 仕事の楽しさや、できるようになったことを絵や動作で表現する。
3. 活動計画（10時間） 9月・10月

児童の活動	育つ力と見取りの視点	支援・他教科との関連
<p>いえにはどんなしごとがあるかな (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の仕事を探してカードにかく。 ・かいた仕事を分類する。 	<p>【表現する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆家の仕事を絵や文でかく。 <p>[気付く力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇家庭にはいろいろな仕事があることや、どの家庭にも共通した仕事があることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事を思い出す手立てとして、絵図を用意する。 ○家庭生活を支える仕事に気付くように、家の仕事を分類して貼る。
<p>じぶんもいえのしごとをしてみよう (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できそうな仕事を考え、1週間仕事に取り組み、記録カードに記録する。 ・どのような仕事をしたかを発表し合う。 ・家の人の感想を聞く。 	<p>【実践する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆やろうと決めた仕事を実際に行う。 <p>【表現する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分がした仕事を友達に伝える。 <p>[感じる心]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分が仕事をするのが、家族の役に立っていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事をする際家の人にも協力してもらえよう事前にお願いをしておく。 ●記録カードを使って仕事をしたことを認め合うように設定する。 ○仕事をする意欲がより高まるよう家族の人に手紙を書いてもらう。
<p>できるしごとをさがそう (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に仕事を教えたり、教えてもらったりする。 ・仕事をした感想を発表する。 	<p>【表現する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆仕事のやり方を友達に伝える。 <p>【実践する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆仕事を実際に行う。 <p>【かかわろうとする力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達と協力して、仕事を進めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動場所に配慮する。 ●どの児童も、教える立場、教えてもらう立場を経験するようにする。 ●道具や器具の正しい使い方を必要に応じて教える。 ●協力して仕事を進めていることを褒める。
<p>つづけてしごとをしよう (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が一緒に生活していることのよさについて考える。 ・自分が続ける仕事を決め、家族の人に手紙を書く。 	<p>[感じる心]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分が仕事をする中で、家族の役に立っていることを感じる。 <p>【表現する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆仕事を決めた時の気持ちを手紙に書く。 <p>【実践する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分も家族の一員として、仕事を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族のありがたさに気付き、自分も家族の一員であることを意識できる場とする。 ●やった仕事を認め、励まし、継続への意欲付けをする。 <p>☆道徳（文溪堂）「おてつだい（家族愛）」につなげる。</p>

4. 児童の姿とそこから見取ることのできる力

『表現する力』『かかわろうとする態度』を発揮したA児

(1) 『表現する力』を発揮したA児

① 「いえにはどんなしごとがあるかな」の活動におけるA児

「家の仕事にはどんなものがあるかな」という問いかけに対してA児は、すぐに4枚のカードをかいた。

- ・掃除 ————— 雑巾がけをしている母親と自分の絵を描き「おかあさんつかれるかなあっておもいました」という文も書く。
- ・料理 ————— 包丁を持っている母親と自分の絵を描く。
- ・アイロンがけ ————— アイロンを持っている母親と自分の絵を描く。
- ・洗濯物たたみ ————— 母親と自分の絵を描き「おせんたくたたみました」という文も書く。

また、いろいろな仕事の必要性について、「洗濯物をたたまないとしわになっちゃう」「洗濯しないと、お洋服が汚いまま」と発言した。また、ワークシートに「りょうりをしないとおなかすいてしんじょう」「ふとんをほさなかつたらかびだらけ」と書いた。

② 「できるしごとをさがそう」の活動におけるA児

最初に、全員で靴下を洗う活動を取り入れた。その活動を終えたA児は、2枚のカードをかいた。1枚は、靴下を洗っている絵に「こすってもくつしたのくろいのがおちない。でもまあまあ」という文を書いた。もう1枚には「くつしたあらいはじめてやった。でもたのしい。とてもたのしい」という文を書き、靴下を持って踊っている絵も描いた。2枚のカードをかいたのはA児とM児の2名だけであった。

次に、友達と仕事を教え合う活動を行った。その翌日、お風呂洗い、皿洗いを教えてくれた友達に「〇〇ちゃんは教え方が上手でした」と伝えた。また、自己評価カードには「せんたくものはしわをのぼしてたたむときれい」「おふろあらいたのしい」と書いた。

おうちのしごと みつけたよ。
くみ ねん()



くつしたあらい
はじめてやった
でもたのしい
とてもたのしい
たのしい



「A児のかいたカード」

A児と『表現する力』について

A児は自分から進んで挙手したり、発言したりすることが比較的少ない児童であった。しかしこの活動では、自分で家の仕事を探し、気付いたことをカードに表現したり、進んで挙手し、発言したりする姿がたびたび見られた。A児にとって実際に活動したことがその体験を伝えたいという意欲につながり、表現への意欲を高めたと考えられる。

(2) 『かかわろうとする態度』を発揮したA児

- ①「できるしごとをさがそう」の活動におけるA児
最初の靴下を洗う場面では、グループの友達と「洗剤は、これぐらいでいいかな」「ごしごしするんだよね」などと友達とかかわりながら取り組む姿を見取ることができた。



「こうやってたたむんだよ」

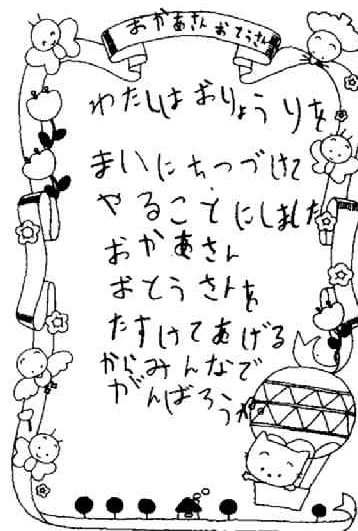
友達に仕事を教えてもらう活動では、「お風呂洗い、習っていいですか」「どんな風にやるんですか」「やり方教えてください」と友達に声をかけて活動する場面が見られた。

また、「皿洗い、習っていいですか」と教えてもらいに行った場所では、「落っこちたら割れるでしょ」「割れないお皿がいいね」などと友達との会話を楽しみながら、丁寧にスポンジで洗い、すすいでいる姿も見取ることができた。終わったあとは「ありがとうございました」とお礼を言っていた。

仕事を教える場所では、一緒にグループを組んでいた児童がいつも先に教わりにきた児童に教えてしまうためA児は思うように教えることができなかった。しかし、「誰に教えればいいのか」「教えたいけどやっちゃうんだもん」「2人でやろうよ」などと友達と一生懸命かかわろうとしていた。

- ②「つづけてしごとをしよう」の活動におけるA児

活動の最後に、自分がこれから続けて行う仕事を決め、家族へ手紙を書いた。A児は「毎日料理の手伝いをする」と決めた。これは、母親からの手紙「いつもお料理の手伝いをしてくれてありがとう。早く、お父さんに美味しい料理を作ってあげられるようになるといいね」にこたえたものである。



「家族への手紙」

A児はこの活動が終わった後も、「昨日サラダのお手伝いしたよ」「お父さんおいしいって言ってくれたの」などと報告することが続いた。

A児と『かかわろうとする態度』について

A児は仕事を教えてもらう場面で、自分から友達にはたらきかけながら生き生きと活動していた。

また、いろいろな仕事を体験していく中で家族とも、より積極的にかかわろうとするようになった。

しかしA児が仕事を教える場面では、教える相手が少なかつたため、もっと教えたいという思いを果たすことができなかった。このような活動をするためのグループ分けや場の設定などをさらに工夫することで、かかわりをより深めることができると考える。

5. 「しごと だいさくせん」の学習活動と児童に育つ力

(1) 本活動でみられた児童の姿

- 『学ぼうとする意欲』
- ・包丁を使う順番を待っている時にじっと見たり、やっているまねをしたりしていた。
 - ・仕事をする場所に走っていった。
- 『かかわろうとする態度』
- ・「みんなといっしょにやってよかったです」と感想を述べた。
 - ・お米をとぎながら「こうやればいいの?」「そうそう」などと会話をはずませながら仕事を進めた。
- 『実践する力』
- ・左手を猫の手のようにそえてきゅうりを包丁で切った。
 - ・皿洗いでスポンジに洗剤をつけてごしごし丁寧に洗った。
 - ・靴下をすすいでからぎゅっと固くしぼって干した。
- 『表現する力』
- ・家の仕事を探してカードに絵や文でかいた。
 - ・自分がやった雑巾がけの仕事を動作を取り入れながら発表した。
 - ・「お客さんが来てくれた」と飛び上がって喜んだ。
 - ・続けて行う仕事を決め、それについての手紙を書いた。
- 『考える力』
- ・「掃除をしないと、部屋がゴミだらけになる」と答えた。
 - ・「布団を干さないと、ダニがわいてしまう」と答えた。
- 『感じる心』
- ・母親からの手紙に対して「お母さんから手紙が来てうれしい、やる気がでてきた」と言った。
 - ・靴下を洗う時に「洗剤がてにつくとつるつるした」と言った。
 - ・トレーナーをたたみながら「これは難かしいや」とつぶやいた。
- 『気付く力』
- ・「お母さんは家の仕事をたくさんしているんだね」と言った。
 - ・料理、洗濯、掃除などはどの家庭にもある仕事だと気付いた。

(2) 本活動に対する考察・課題

本活動では、家庭との連携が大変重要であった。多少の不安を抱えてのスタートであったが、一週間の仕事への取り組みの様子をビデオや写真で記録してくれたり、連絡帳で知らせてくれたり何とか協力が得られた。

また保護者からの、児童が仕事をするのが家族の役に立っているという内容の手紙を全員書いてもらったことが、仕事することへの意欲付けとなったと考えられる。

また、自分のできる仕事を実演して教えたり、教えてもらったりする活動は、児童が家庭で行っている仕事を直接体験できるという点で有効であったと思う。児童同士のかかわりが多くなることで、お互いのよさを見つける機会も増えた。

児童が仕事を教える際、それぞれの家庭によっていろいろなやり方があることに、児童が気付くこともできた。

今後は、児童の発達段階に応じて、どの程度まで活動を広げていけばよいか、児童の意欲を継続させるための支援をどのようにしていくとよいのかなどが課題である。


『実践する力・かかわろうとする態度』が育つ学習活動

1. 単元名「おもちゃを作ってあそぼう」

2. 育つ児童の姿

- 身の回りにある材料を活用して、楽しくおもちゃを作ったり遊んだりする。
- 友達とかかわりながら、工夫して作ったり、楽しい遊び方を考えたりする。
- おもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、自分や友達のよさに気付く。

3. 活動計画（11時間） 9月・10月

児童の活動	育つ力と見取りの視点	支援・他教科との関連
<p>ブンブンごまやパッチンかえるを作ってあそぼう (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り方を知り、工夫して作る。 ・作りながら遊んで、改良していく。 ・友達と相談しながら作ったり遊んだりする。 	<p>〔学ぼうとする態度〕</p> <p>◇ブンブンごまやパッチンがえるを手にとって、見たり、「作ってみたい」とつぶやく。</p> <p>【実践する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆説明書を見ながら、おもちゃを作る。 ◆安全に気を付けて道具（錐）を正しく使う。 <p>【かかわろうとする態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達に難しいところをやり方をたずねたり、教えたりする。 ◆友達とおもちゃを取り替えたり、競争したりして一緒に遊ぶ。 	<p>○意欲をもたせるために、見本のブンブンごまや、パッチンがえるを見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●思うように作れない児童に見本を見せたり、手を貸したりする。 ●安全な道具の使い方を教える。 ●友達に教えている子どもを、ほめたり紹介したりする。 <p>☆図工「ニンジャロープで」開隆堂</p>
<p>自分のおもちゃを作ってあそぼう (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ作りの計画を立てる。 ・工夫しておもちゃを作る。 ・友達と相談しながら作ったり遊んだりする。 	<p>〔考える力〕</p> <p>◇自分の作りたいおもちゃを決めて、必要な材料や道具を考える。</p> <p>【実践する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆安全に気を付けて道具を使う。 ◆作っては試して、イメージに合うおもちゃを作る。 ◆作り方の本を見ながら作る。 <p>【かかわろうとする態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達と教え合って作る。 ◆友達とおもちゃを取り替えたり、競争したりして一緒に遊ぶ。 <p>〔表現する力〕</p> <p>◇作ったおもちゃを紹介したり、進み具合を発表したりする。</p> <p>◇うまくできたところや、もっとやってみようことなどを、カードに書く。</p> <p>〔気付く力〕</p> <p>◇自分や友達のよさを探して伝える。</p>	<p>○参考資料として、工作図鑑や材料、道具を用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安全な道具の使い方を教える。 ●思うようにできない児童の相談にのり、励ましたり、手を貸したりする。 ●工夫しやすいように、補充材料や道具を用意する。 ●教え合っている子どもたちをほめたり紹介したりする。 ●友達と一緒に遊べるように遊び場を設ける。 <p>○作ったり遊んだりしている途中でも、書けるようにカードを用意しておく。</p> <p>○工夫しているところをほめたり、紹介したりする。</p>
<p>みんなであそぼう (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったおもちゃで、みんなで遊ぶ計画を立てる。 ・準備をする。 ・みんなで遊ぶ。 	<p>〔考える力〕</p> <p>◇みんなで遊ぶときの遊び方を考えて、提案する。</p> <p>◇遊び方を決めるときに、手を挙げて、賛成や反対を示す。</p> <p>【実践する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆安全に遊ぶ場所を選んで準備をする。 <p>【かかわろうとする態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達と協力して、おもちゃを並べたり、机を並び替えたりする。 ◆友達におもちゃの動かし方を教えたり、遊びのルールを教えたりする。 	<p>○どの子のおもちゃも使える遊び方を考えるように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●遊ぶときのことを予想して、危険あれば教える。 ●友達と一緒に活動できていない子の相談にのり、助言する。

4. 児童の姿とそこから見取ることのできる力

(1) 『かかわろうとする態度』を発揮したA児

①ブンブンごま作りのA児

作る活動では一人で黙々と作っていたが、遊ぶときには友達に「指が痛くなるくらい巻き付けて引っ張るの」とコツを説明していた。黒板下のフックに紐を引っかけて片手で回す技もみせたので、友達に「名人だ」と言われて嬉しそうだった。翌日の朝の会では「足で回せるようになったよ」と全員の前で両足親指に紐をかけてブンブンいわせて回して見せた。「おう」と感嘆の声と拍手を浴びて誇らしげなA児だった。

②竹とんぼ作りのA児

始めは「紙とんぼ」を作る予定のA児だったが、二人の女子が「竹とんぼ」の計画書を出したのを見て、「やっぱり竹とんぼにする」と変更を申し出た。これまで一人で作ってきたA児が友達と一緒に作ろうという気持ちになったことに感心した。そして作る活動ではS児がのこぎりを引く間、A児は「僕にできるかなあ?」「難しいや」とつぶやいて弱気だった。しかしS児が穴あけ作業で抜けると、T児をリードして積極的に活動し始めた。次第にのこぎりもうまく引けるようになった。錐で穴をあけるときには「少しずつ回さないで強くまわすんだよ」とT児に優しく教えていた。その後も3人で力を合わせ一人一つずつの竹とんぼを完成させて「おもちゃの国のデパート」では竹とんぼ屋さんを出店、お客さんに飛ばし方を教えたり景品をあげたり、いきいきと活動していた。



「もうすぐきれそう」

A児と『かかわろうとする態度』について

A児は日ごろ友達のなかであまり自己主張せず、友達に譲ることが多い。友達とのかかわりのなかでは比較的受け身と見受けられたA児が、本单元では少しずつ自信を持ち、自分から友達にはたらきかける姿をみせるようになった。これは活動当初に友達に認められた嬉しさや、共に遊んだ楽しさを味わったことで、A児の姿勢が友達とのかかわりを深めようという姿勢に変わってきたからであろう。A児の母から最近友達と積極的に公園へ遊びに行くようになって嬉しいとの報告があった。A児のなかで友達とかかわることへの関心が高まってきているようだ。

(2) 『実践する力』『学ぼうとする意欲』を発揮したB児

①ブンブンごま作りのB児

B児は独自のアイデアを優先して三角形のごまを作ったものの、中心に穴が開けられず全く回らなかった。しばらく頑張っていたが、結局説明書どおりに作り直し始めた。しかし、時間切れとなってしまった。すっかり気落ちした様子だったので、見本のごまをプレゼントすると「ありがとう」と受け取って帰って行った。翌日朝、「先生、これ返すね。家で作ってきたから。ありがとう」と昨日のごまを手渡しに来た。B児は帰宅後もブンブンごまを完成させたくて粘り強く取り組んだのだった。

②パッチンがえる作りのB児

一つ目も二つ目も失敗して、紙のつなぎ方やゴムの引っ掛け方を変えて、ようやく三つ目によく跳ぶかえるを作ることができた。このときやっと笑顔が見られた。

③ビー玉とばし作りのB児

B児たちは割り箸を小刀で二つに切る作業が進まずに苦勞していた。教師が手を貸して解決したものの、しばらくすると今度は割り箸の組立てに苦勞していた。ゴムで絡めて留めるように助言したが、じきに終了時刻となってしまった。翌日の朝の会で、B児は胸を張ってビー玉とばしをかざして見せた。時間切れでできなかった分を家で作ってきたのだった。全員の前で飛ばして見せ、「よく飛ぶね」と言われて満足気なB児だった。

B児と『実践する力』『学ぼうとする意欲』について

B児は明るく積極的に友達とかかわっていける児童である。しかし、学習の作業がはかどらないとき、擦り傷をつくったとき等、様々な場面でよく涙を見せる。ときには諦めたように見受けられることもあった。本単元でB児は幾度も困難に直面したが、その度に支援を受けることで切り抜けて、次に進む意欲的な活動ぶりを見せた。それは、ブンブンごまを最後まで作り終えた時の満足感とその後に生きて、作り続けようという意志を生んだからではないだろうか。一学期の頃に比べ、B児の粘り強い姿にその成長の大きさを感じた。



「切れるかなあ」



「ゴムをからめるんだよ」

5. 「おもちゃをつかってあそぼう」の学習活動と児童に育つ力

(1) 『実践する力』『かかわろうとする態度』の他に見取ることのできる力

①『考える力』

おもちゃを作ったり遊んだりする過程で子どもたちは試行錯誤を繰り返していた。どうしてよいか解らずに、あれこれ考えては試す様子があちらこちらで見られた。弓でストローの矢を遠くへ飛ばす方法を見つけようとしていたI児、釣竿作りで材料や道具をいろいろ替えて、しなる竿や形のよい釣り針を作っていたY児、いずれも説明書に書かれていない部分にこだわって自分なりに工夫していた。こうした試行錯誤の姿は、考える力が発揮されたものととらえた。

②『学ぼうとする意欲』


こんなおもちゃを作りたい、おもちゃでこんなことをして遊びたいなど、自分の思いが実現できるまで粘り強く取り組むことのできた児童がいた。ゴムを飛ばすピストル作りに取り組んだC児、とびだす部屋作りに取り組んだD児、コイン・デ・トリック作りに取り組んだE児は、いずれも一人で最後まで作り上げて、「おもちゃの国のデパート」に臨んだ。



「うまくとぶかな」

たけとんぼチーム ()
きょうはだのしがつたよ。Tさん、
しごとがんばっていたよ。A
くんも。おきゃくさんもいっしょに
きたよ。

ニコニコ カード ()
例) だまはしてもうすしてはいけなかったの
にはいんなかたよ。でもたのしかたよ



(2) 本活動の考察

本単元の学習活動の特徴は「作るだけの活動」「遊ぶだけの活動」の制限をなくし「作ったり遊んだり自由に行える活動」という点にある。このことが友達とのかかわりを深めたり、意欲を高めたりするのに大いに有効だった。友達の作る様子にヒントを得たり、友達の遊ぶ様子にやる気を触発されたりしていた。また、失敗しても作り直すことができ何度も繰り返し実践して成功に近づくことができた。共に作り共に遊ぶ楽しさを味わうことができた。教室と校庭を自由に行き来して、作っては試して遊べるようにしたことで、より活動を楽しむことができた。改善すべき点は、各自が作ろうとしたおもちゃの見本を用意していなかったことで、工作図鑑だけではイメージをつかめない子のための支援として、必要に応じて見本を見せられるようにしておくべきであった。

IV 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

〔育つ力と見取り〕

- ・生活科で育つ自立への基礎となる力を分析・整理し、学習や生活の基礎となる能力や態度として、「学ぼうとする意欲」「かかわろうとする態度」「実践する力」「表現する力」「考える力」「感じる力」「気付く力」の7つを仮定した。さらにその力を具体的な子どもの姿として表した。それが、生活科で育つ力を見取るときの視点となった。
- ・見取りの視点をもつことにより、児童が活動している姿を共通の視点で見取ることができた。その記録は、育つ力の分析に生かすことができた。
- ・自己評価や相互評価をできるだけ取り入れることによって、教師の観察だけでは、見取りにくい児童の内面を知る手立てとなった。
- ・育つ力を授業を通して、見取っていくうちに、それぞれの力は独立して育つのではなく互いに関連をもちながら、育っていることが分かった。そして、それらを総合したものが自立への基礎になることが分かった。

〔育つ力をはぐくむ学習活動〕

- ・「育つ力をはぐくむ学習活動」のポイントとして10項目を考えた。活動計画を立てる時、できるだけそれらを満たすようにしてきたことで、児童が育つ力を発揮できるような活動計画を作成できるようになってきた。
- ・生活科で育つ力が見えるような活動計画案の表記を考えた。育つ児童の姿を見取るために、「育つ力と見取りの視点」という項目を作った。さらに、育つ力をはぐくむための支援を、できるだけ具体的に書いた。その結果、育つ力が見える授業作りの工夫ができるようになった。
- ・児童一人一人に育つ力を見取っていくことで、より子どもを理解できるようになった。児童理解が進むと、児童の実態と育つであろうと想定した児童の姿のいずれが少なくなり、子どもの願いに沿った、活動計画が立てられるようになることが分かった。

2. 今後の課題

- ・生活科で育つ自立への基礎となる7つの力の見直しを続けていく。
- ・子どもがより力をはぐくむ学習活動について追究していく。
- ・子どもが育つ力を自覚できるような方法を更に探っていく。

